

平成25年度 川崎市子ども・子育て会議 計画策定部会 議事録

日時：平成25年11月22日（金）18時00分から

場所：中原市民館 第1会議室

■出席者

委員	秋草学園短期大学 教授	岸井 慶子 氏
	学校法人 鷗友学園 特別顧問	柴田 頼子 氏
	NPO 法人 子ども子育て支えあいネットワーク満 コンシェルジュ事業担当	関川 房代 氏
	公募委員	徳谷 さやか 氏
	元 和泉短期大学 教授	中村 美津子 氏
	田園調布学園大学 教授	村井 祐一 氏
事務局	子育て施策部長	中村 孝也
	子育て施策部子育て支援課担当課長（子ども・子育て支援新制度 相澤 太 準備担当）	
	子育て施策部子育て支援課担当係長（子ども・子育て支援新制度 池田 幸 準備担当）	
	子育て施策部職員（子ども・子育て支援新制度準備担当）	大條 雅彦
	子育て施策部子育て支援課長	山本 奈保美
	子育て施策部子育て支援課担当係長〔子育て支援〕	藤原 千尋
	子育て施策部青少年育成課課長補佐	眞鍋 伸一
	保育事業推進部保育課調整第2係長	星 和明
	保育事業推進部保育所整備推進担当係長〔民間活用推進担当〕	中島 洋幸
関係者	株式会社 創建	

■配布資料

議事次第

川崎市子ども・子育て会議 部会委員名簿

川崎市市民・こども局こども本部関係職員名簿

資料 「子ども・子育て支援事業計画」及び計画策定における利用希望の把握「ニーズ調査」の実施について

資料 川崎市子ども・子育て支援に関する調査実施状況について

資料 川崎市子ども・子育て支援に関する調査サンプル数の内訳・設定状況について

資料 かわさき子ども「夢と未来」プラン中間評価報告書（未定稿）

参考 子ども・子育て支援法に基づく給付・事業とアンケート調査の関連について

参考 川崎市子ども・子育て支援に関する調査結果（速報版）＜小学校就学前＞

参考 川崎市子ども・子育て支援に関する調査結果（速報版）＜小学校就学＞

■議事

1 「子ども・子育て支援事業計画」及び計画策定における利用希望の把握「ニーズ調査」の実施について

(事務局より、資料に基づき説明がなされた。)

(質疑応答)

- 【村井会長】 「2計画の概要」任意事項について、「産後休業、育児休業明けのスムーズな保育利用の方策」とあるが、このスムーズというのはどのような意味か。
- 【事務局】 産後休業、育児休業明けすぐに利用できる方策であり、他都市では産後休業、育児休業明けに利用できる暫定枠を設けている例がある。
- 【村井会長】 「4計画の構成案」の「計画の推進に向けて」に関して、計画策定後、5年後の計画の評価が曖昧なものとならないよう、何をもって推進できたとするか、評価軸を設ける必要がある。また、重点目標を文章化しておくことも重要である。
- 【事務局】 目標量等の数字目標を掲げたり、理念的な目標については、所管の考え方(自己評価)をまとめ、市民評価を行ってもらえる仕組み等を構築できないかと考えている。今後、重点目標を文章化しておく必要があると考えている。今回提示した計画(骨子案)に検討を加えて次の本会議に提示したいと考えている。
- 【村井会長】 以前の計画のなかでワーク・ライフ・バランスが1つの項目となっていたが、今回は任意項目ということもあり、柱の1つとするのか等の位置づけを検討する必要があるように思う。
- 【事務局】 ワーク・ライフ・バランスについては、かわさき子ども「夢と未来プラン」の「Ⅱ家庭の育てる力を支える仕組み」に位置づけられていたこともあり、今後も必要な項目と考えている。
- 【村井会長】 現行計画との整合性を図るという意味はどう考えたらよいか。基本目標レベルなのか、施策レベルなのか。中身は複雑に関係しあっており、整理が難しいように感じる。
- 【事務局】 これまでの計画が子どもの関係する教育、福祉、健康、まちづくり等の幅広い分野を含めたマスタープラン、総合計画となっていた。ここで推進を進めた事業については、引き続き計画に位置付けていく必要があると考えている。但し、現行計画のなかで課題があるものや検討が必要とされるものについては、再整理を行い新しい計画に位置付けていく必要がある。現行計画の内容と新しい計画の内容でかなりの部分が重複しているため、お互いを網羅できるように整理していきたい。
- 【村井会長】 アンケートから見えた課題についてはどこに記載するのか。
- 【事務局】 計画のイメージ「子どもと家庭を取り巻く環境の変化」の部分で、アンケートの内容も含めて記載したい。
- 【村井会長】 「量の見込み」と「その確保の内容」について、希望を満たせなかった場合のフォロー体制というのはどう対応されるのか。計画の段階では、量の見込みが確保量を上回ることはないと思うが、予定通りならよいが、満たされな

かった場合の対応が気になる所である。

- 【事務局】 その希望をいつまでに満たせるようになるのかを記載することになる。最初の段階で量の見込みを落とし込んでしまうため、中間時点での修正対応というの也被えられる。
- 【村井会長】 「確保の内容」というのはどのような表現となるのか。数字だけではなく、どのような手段で満たすのかといった根拠や内容也被えれるため、「イーア」の引き算で表現できるものばかりではないと思う。
- 【事務局】 事業を必要とする対象者に対して、どれだけその事業を実施するかということになる。事業によっては箇所数や定員等の指標で表現されるが、ご指摘の通り内容を書くもの也被えれると思う。
- 【関川委員】 一時預かりや乳幼児健康支援一時預かりについて、箇所数で表現されることだが、現実的に利用できたことがあまりない。箇所数が増えたからといって需要を満たせたという感覚ではない。
- 【村井会長】 実際に利用できたという数と、受入れを断ったという統計データがないと正確には評価ができない。稼働率といった考え方も必要である。
- 【関川委員】 産休や育児休業明けでスムーズに利用できる支援といった話があったが、来月、職場復帰をするのに未だ決まていないという状況が現実にある。数が増えるということと、利用の仕組み、ルールが利用者のニーズにあてているかということが重要である。そのルールに合わないために利用できない、施設側も空きがあるということがあるのではないか。
- 【事務局】 新しい計画では、教育・保育の提供区域を決めて、将来人口等を勘案し、量の見込みを決めることされている。
- 【村井会長】 より生活圏に密着した場所での利用が可能となる。小さな圏域での設定により、こちらでは空いているので利用できる等、補完し合う形で進められるのではないか。
- 【関川委員】 現在の一時預かり事業のルールについて、一園だけに登録して利用できるのを待つ形となっているため、月に1～2回しか利用できない。複数の園に登録可能として、キャンセル待ちであっても前日までに利用できることが分かれば、多少遠い所であっても空いているなら、利用したい。もっと利用しやすい仕組みづくりができないか。
- 【村井会長】 エリア統括といった考え方で、エリアで空き状況が分かればそちらへ誘導することができる。そのようなコーディネート機能があるとよい。
- 【事務局】 新しい事業で利用者支援という事業がある。利用のコーディネートや情報の提供等をさらに進められたいと考えている。
- 【村井会長】 人材育成等、極めて難しい課題があるとは思いますが、お願いや相談だけにとどまらず、コンシェルジュへ決定権、調整権を与えてほしい。

2 川崎市子ども・子育て支援に関する調査実施状況について

(事務局より、資料に基づき説明がなされた。)

- 【徳谷委員】 「2単純集計の問題点」について、補正はより実態を浮かび上がらせるために実施するのか。
- 【事務局】 どのような事業を使っているかといった設問については、現実には幼稚園利用者が多いが、0歳児の対象者が多いため、保育所を利用したいというニーズが強く出ている傾向にある。全く違う傾向ということではないが、全市的な統計とする際に補正をした方がよいかと考えた。
- 【村井会長】 実際のデータと補正データを見比べ、どの程度の差異が出るのかをみてみると補正した方がよいかどうか判断できない。
- 【中村委員】 いずれにしても報告書には実際のデータを残した方がよい。加工していない実際のデータが基本であるから。
- 【事務局】 サンプル的にデータを整理させて頂き、再度、委員の皆様に見て頂きたい。
- 【村井会長】 行政区分として7区を対象にしたということだが、区のバランスや区よりも小さい生活圏という考えで設定したのか。
- 【事務局】 区域としては7区を基本にした。
- 【村井会長】 最小単位としては小学校区で見る必要があると思う。分析をするというよりはデータとして持つ必要がある。
- 【事務局】 小学校区や中学校区という単位でデータを見られるように整理を進めている。
- 【徳谷委員】 小学校単位で利用する「わくわくプラザ」の状況については、それぞれで実施状況が異なると聞いたことがあるため、小学校区で検討する必要がある。
- 【徳谷委員】 現在利用している事業と今後、利用したい事業の違いを浮かび上がらせるのはどのようなデータを見たらよいか。
- 【事務局】 現在利用している事業と今後、利用したい事業の違い、差を取り集計することでデータとしては提示できる。
- 【関川委員】 新しい制度となり施設や事業が多様化する中で、現在は保育園を利用しているが、幼稚園でも対応できることが分かるとそちらへ移りたいと考える場合もあると思う。
- 【事務局】 同じ施設で時間を延ばしたい場合や、異なる事業を選ばれる場合もあるため、今後クロス集計等で分析していく必要がある。
- 【村井会長】 利用している事業と年齢別のクロスをパーセンテージで見ると、幼稚園の割合が3歳で増えたように見え、認可保育所が減ったように見えるが、件数でみてみないとその動向が分からない。
- 【中村委員】 現在、認定こども園は市内で1園だけである。近くに住んでいる方はイメージできるかもしれないが、今後の利用を質問しても具体的なイメージができる方がどれだけいるかは分からないことを念頭にデータを見た方がよい。
- 【村井会長】 父子家庭、母子家庭の状況がどのようになっているかを分析してほしい。
- 【事務局】 データに関する意見やクロス集計項目の依頼について、メール等で期限を決めてご意見をお願いしたい。
- 【岸井委員】 計画について量の問題が中心となるが、その担い手となる保育士の確保や育

成ついてどう確保していくのかが重要である。

【村井会長】 保育士の就労環境の改善等も含めて考えていく必要がある。

【徳谷委員】 現場の保育士の声等を反映していくことは可能か。

【事務局】 今後、設置を検討している部会について保育士に参加していただくことや、
現在の子ども・子育て会議にも参加して頂いている。

【村井会長】 区ごとの見込み量の検討にあたって現状とギャップのある数値とならないよ
う、現状を把握している施設関係者の意見を反映させることも重要である。

3 その他 第2回 子ども・子育て会議の予定について

・平成26年1月21日 18:30～ 川崎市役所にて実施予定

(終了 20時15分)

以 上